

## 呼応の副詞 確認テスト（え～打消・な～そほか） 解答・解説

### ■ 解答・解説

問1 呼応する語＝「ず」／現代語訳＝「(私は) この笛を吹くことができない」。副詞「え」は下に打消の語を伴い、不可能「～できない」を表す。

問2 イ。「さながら」は「そっくりそのまま・すべて」の意。ここは「まるで昔の都の姿そのまま」と、もとの姿が変わらないことをいう。

問3 呼応する語＝「そ」／意味＝禁止（～してくれるな・～するな）。「な＋動詞の連用形（カ変・サ変は未然形）＋そ」で、やわらかい禁止を表す。

問4 呼応する語＝「じ」／意味＝「まさかこれしきの雨で道は閉ざされまい」。「よも～じ」で打消推量を強め、「まさか～まい・よもや～ないだろう」の意。

問5 「つゆ」は下に打消の語（ここでは「ず」）を伴って、「少しも～ない・まったく～ない」という強い打消の意味を表す。

問6 「ね」は打消の助動詞「ず」が活用したもの。基本形は「ず」、ここは係助詞「こそ」を受けた係り結びで、已然形「ね」となっている。

問7 イ。「さらに～なし（打消）」で「少しも～ない・まったく～ない」の意。打消を伴わない場合の「さらに（＝いつそう）」と区別する。

問8 ア。「いさ～知らず」で「さあ、(どうだか) わからない」の意。相手の問いに対してはつきりとは答えられない気持ちを表す。

問9 反語。「あに～や」で「どうして～か、いや～ない」という反語を表す。「あに命を惜しまむや」＝どうして命を惜しもうか、いや惜しみはしない。

問10 「たえて」＝「まったく（～ない）・少しも（～ない）」。下に打消を伴い、強い打消を表す。訳例「まったく便りもよこさず」。

問11 ア。「なんぞ～や」は疑問・反語を表し、ここでは「どうしてこんなに嘆くのか」という疑問（問いかけ）の意。

問12 ア。「たとひ～とも」は假定・逆接を表し、「たとえ～であっても」の意。「たとひ身は滅ぶとも」＝たとえわが身は滅びても。

問13 願望。「願はくは～（む／ばや等）」で「どうか～してほしい・～であってほしい」という願望を表す。

問14 イ。「をさをさ～ず（打消）」で「ほとんど～ない・めったに～ない」の意。

問15 ア・ウ。「つやつや」は打消を伴って「少しも～ない」の意。同じく打消と呼応するのは「つゆ（ア）」「さらに（ウ）」。「よも（イ）」は打消推量「じ」、「あに（エ）」は反語と呼応するので不適。

問16 仮定（順接の仮定条件）。「もし～ば」で「もし～なら（ば）」という、まだ起こっていない事柄を仮に想定する意味を表す。

---

問17 「な」。「な泣きそ」＝泣いてくれるな。

---

問18 「よも」。「よも行かじ」＝まさか行くまい。

---

問19 「え」。「え参らず」＝（とても）参ることができない。

---

問20 「つゆ知らず」＝少しも知らない・まったく知らない。／「をさをさあらず」＝ほとんどない・めったにない。

---

問21 （解答例）「～な」は動詞などの下に終助詞「な」を一語だけ付けて禁止を表す。これに対して「な～そ」は、禁止する動詞をはさむように、前に副詞「な」を置き、後ろに終助詞「そ」を置く形で、副詞「な」と文末の「そ」が前後で呼応して禁止を表す点が違う。

---

問22 （解答例）呼応の副詞とは、文の下に決まった語を伴って初めて意味が定まる副詞で、たとえば「え」は下に打消の語を伴って「～できない（不可能）」という意味を表すように、副詞と下の語がセットで一つの意味を作るものである。

---